

大成令書拔第一卷

司法省記錄文庫
第九百九號

第 第 第
四 一 大
架 號

司法省記錄文庫
第一三號

司法省
第一三四號
寄贈圖書文庫

BI-1



B150
Tiltland
T.C.
SIBALY.

大成令二

正徳二所年九月五日

評定に面くも 仰出は書付

一 寛永の旨 仰付く事 仰出に評定所格式評
 定元印申別より各令の如申別退出し其日よ
 一 難き事ニあり一 聖旨 再令以て程又其
 小及引難き事ハ老律ニ申言と云 厚き生
 近年ハ事公平評定も云 数多く成事ハ
 由評定に面く事ハ別功と候ニ裁制の由

司法省

滞る所もあくり 評定所の間もあくり 退出は候
 お分は若 毎事その 大法も修せて 其及理を
 其小及引して 裁り申りたり 申付て 評定
 事 思ふ事

一 評定所 評定事ハ 仰出の如く 抄付し 評定所
 其評定を 按て 評定所の如く 其評定を 其
 奉旨とすて 校書の事ニ 評定所 評定所
 其評定所の如く 其評定とす 評定所 評定所
 其評定所の如く 其評定とす 評定所 評定所
 其評定所の如く 其評定とす 評定所 評定所
 其評定所の如く 其評定とす 評定所 評定所

B150
I II
I a

凡又事の末なる可く付而其事を我知る所
勿滞りとりしもの故葉の事を論じて多事
たゞは其事を先か事ゆゑの御るハ必
其説はも授く難く其末を逐ひ難く
論地おし事古来多くハ評定所を
上級心事交ハり交ハり近年ハ
申付換便と心裁ハりあるハ可
おのれをくは是おし難法事ハ
可有る事ハ思ふハ事

司法省

附近年心事罪惡極重く筆と助け
目眩ハ向ハり拓と名付ハ
及この出来ハ時々奉引申
或ハ捜求ハハ明セハ
有無或事ハ有ハ
如其事ハあやまらざるハ
ホハ事ハ力我借り用ハ
事ハと取抄ハハ事ハ甚ハ
彼案ハハ不或ハ遺憾ハ
ようて事ハ神江ハ
数程ハ有ハ

の布羅をたゞし、自今以後此亦少可然事
大停廢有處事也 思ふらば事一

一評定所し法公平評定の事其節の彼人間難有
之り而一症く而く為事最りくそその為事り
を測さる申出を厚き空んぬと年々事方
は更測ゆり及びは言初申出りり案の妙法小
但せ事残案一は換あひぬと一其事案小
有るりり評定く而く其人故多しとい
とも一人の妙法ゆ事受一ぬと一古く更測と
申評定と事其平美をお失い自今後

司法省

夫若其心力をそり一更測の上の語一は換よ
可任の也也 思ふらば事一

一評定所の法を必より評定りら事其停留の日久
一りりその換め可有しゆゆは近年以来
一評定所は法存り所かおびて公事評定法も受
一幾く年月を停て停留の事有しゆあひぬ
一然し去とも其函業は抱ちその在案を離き停
留の日久一くはてはたとい其奉意のことく事
一然り其費用の失却をくまめりりり況又中
一不かり評定もとのニ^評を極く速速ふ及る事

む以不便し事ふん自今心爲支奉仍し面く此
等し所をおもひめくくし妙法に改定可有し也
に 思ふ事

附老申ふ中を達し言さる事しふ再三思慮
とも用ひり毎毎毎年定滞の事も有に
法尋の名有る時若く其改おまわれざる
事も有しはましく事の滞るる明らう
なる中治の有り事とに 思ふ事

一凡公事訴訟の事或権勢の不便有るは革
或納給費用ひひりひの案の類は其意改持り勿

司法省

其重を達しは志有るは世に中り妙法しは改
そては年之交り御心法代給の時毎條同志
おされりとりし其旧弊今お改らざるは
く其改へはも一風改のこくはいふおては改
事よりてやふれはふらしは妙上をその法
は及向後も法事しを改の面くは改
し案のいふありき改定するは
く其改可有る事とに 思ふ事

附宰府の役人とりしもの程々の新法改定
宰府の案の納給改むさるりは改定

一に姑等の事なる中よりまてけりも
傳はるるに割禁ニハぬきけり心ふ可也
事ニハまてて如缺の事ホ多及後禁あり
る厚き事

右條より一々知せしむへくは法を以て
の事ホをいふハ天下法政事の出る所なり
ハは万事の理法を以てお定事ともいふ
る小法今述のことくに有るはかり其を以て
及と申はうりニハり無きハ法政事の明ら
たうはして人臣の不安ありる者其心を

司法省

心妙性の功なり有るはり 作出者也

西徳ニ居る月也

評定所一注

事なり

大成令ニ

正徳六年申四月日

評定一症可成お心付り奉る

一公事海法人違ふより居候候とのいふ中當
地との由裁断を滞りぬり知り本人とも此
外其所の案並も同外のお入も日を逐ひぬる

司法省

ハ多くこれお付てハ同縁取付を廻らし其
事を取柄の志取出奉程く不呈取付候も有し
又ハ此等ノ物入をいと危候との告ハたの川う
公事海法もなかり疑く道理有るとの由非違の
事小と一わすめらる色迷惑候とのも有し
去一々め候事ハ居候量のぬめ小甚ふ可然候
これとも其事のなかりて 理取疑一々又ハ一
の評定もまちくして事案一々かく裁断延
し候事由の有し候自今以後公事海法亦百
日お過候事案一々かく裁断其事の始末

明小書を以て何事あるか二の節も三の節も
弁札の志を以ての事也

一 評定所は出づ借金公事人年々小甚敷多く
あり、故小状外に公事所法に貸渡さるべき
為小事の防の成来りは自今以後ハ或日三日
し月よて一日之旨三日し月之初一日凡一月小
二日宛借金公事人斗り出づは日或お定其余
ハ状外に公事所法に人あり出づ其理非も
小貸渡さるべき裁可及はるへくは事

司法省

一 法奉所所分宰小入き並んどの事品今も
けさる事む川うううは事小也年も
年々事増多せむは所宰内よて死に
年々小多く又ハ公事所は時小遊失は
し幸罪ハ輕くはと大犯し罪小入り
来り又けおま由有る回数も有る事小甚
相も回数小死し失は或ハ貸渡の掛りな
くして事多し難く或ハ存生し者斗お苗し刑
罰は引かれてハ片落る事小似よりは事
も出まらまへく此等の類ハ成付置のた先
小甚不可然事ハ自今以後ハ宰小入置百

小過より重くかごとくは事ハ是又其事の始
末分明の書きたる一何處在否の所也ハ二節とも
之節とも付札おきたる一可なり出書一

附古来より軍會又ハ三急をしく一
其罪科と案別一軍へ入る事ハ法に
是の一節ニたりは事ハ近來ハ其罪科も
いさしく改せられハ兵隊の向えツ軍へ入
りての者多く成来り是又ふ可物事
あり人とも殺害盜賊ホ一罪犯者一との
又ハ其身を斬置候事ハも無き事又ハ

司法省

本主人は新置きりてハふ可物なる細も有
るんとの、新ハ兵隊の百軍ハも入置候事
も可者なる然等ハ外ハ新置候事ハ事ハ有
るハ其罪科ハ改せられ内急ツ軍へ入
置候事ハらるる一思慮候ハ慮らる事一

右條ハ評定所奉引下之事ハ夫下の理非お定か
所より其上又世の人々ハ安堵ハり最建悉一ハも
公平海法の裁制ハお掛りハ統一上其付
奉引ハ妙法ハありハ理を心非とせられ非を
必理とせらるるも違背ハありはといとも

年月日定むる後少くも其半破きりてハ其御裁
断の時一せしむる申のたれふし可御申こふ
へく此等し及御さふ及申り得るは此等のため
方切の法事より定めておさしり得る可
有るものなり

西徳六年甲申月日 右方定令

司法省

寛保元年八月日

大成令二

定

- 一 寄合式日 毎月二日 十日 廿日 法事切し立合
- 四日 十三日 廿五日 但 公儀に法用於るハ此日
多る由らる事
- 一 寄合所ハ評定式日ハ別立時立合と別
立時御出立法用際御事可有返教事
- 一 評定所ハ彼人ハ亦一切不可兼勿漏音信停止
事

一 公事人の如いそへい老人若業并高志を停止
事

一 公事評定は所出との多しは並業の由あり
とふとも刀眼長常無つとる事

一 公事人終る報務縁者知青は身事合陽而
を以て評定元み皆へりつとる事

一 事より事白公事人の五知戸久發出可
ゆい尚也い公事人の其日し性面し之也可

一 公事人白事審中かくる候其知い役人の勤
ゆい他不兼しそふ付候元又急用ハ格別事

司法省

勿論恩生中より首無意はありて是の事

一 公事裁許は其節い役人裁判し終末可也
尚書事

一 公事其日小落着無き候も重ならず改寄合事
うあおお候いお候とこの改言上事

一 役人宅を而る公事評定所は可出候
くニ於てハ院文院跡お務事合所は出い無備

換可也改事

一 新色の水いふ是墨急度遂穿力鑿可也事

一 裏判 並石代改修生事し其所の事を考

日教と積り懐きの意一五料の多の爲事一
右條々可多あるを考也

寛保元年八月日

中務大輔

伊豆守

左近將監

月表人目

100/15
100/15

享保六年二月

定

在りたる若狭地并りとの有るはりし中あつ
一并し所留場之内より多と取中との揃はり
見出しりし早中出つし急な所復又下り
下り也

享保六年二月

評定所前箱に際建札

毎月或日俵状並出し至書付入り若くは去月
廿一日並出し不中並出下り書付入り至り也

三
日
記
卷

大改令
三三九

三三九
三三九
三三九

條々

司法省

一 諸國におおむに世業種一切停止なること
一 世業種高業仕事者ハ個人ニ出づる急度
内務省より事

一 毒業一切業務停止すること

一 以て世金限業停止すること
ハ而督局にておぼしめすこと
一の金限にせ金限を金限にせしむる
一 一とあ督局の外業務停止すること

一 高業に事法地一列に業を止め業務停止すること
并中各條の高業に不たはる事

の者も不届こい向後方を通る候方より
早速役人封し修繕控り申者也

七年
寅二月

一 諸職人中台作料手名簿亦言書之少之能事
右之條之有也此方是遠方之族於有之及礼科
之禮主或礼罪或之為流罪也之折之約之亦之能礼
黨事之ハハ之穿鑿之之可之仍之復科也仍之知
如件

寛文十一年十月廿六日

奉行

定

一 喧嘩口論令停止し、能自始有る時、至午場は一
切不之出向奉

一 役 公儀被仰死罷者、至刻迄 仰付奉、好
不之出向奉

一 大奉令出奉者、役人免件、案、外不之弛集
但役人若易、考、各別奉

一 武士、而、侍、候、勿、論、中、間、考、至、迄、一
司法省

季居一切不之拍至奉

一 至季居、信人、不、之、云、他、場、考、以、身、ハ、不、苦
事

一 人賣買一急停止し、若、強、ノ、案、於、有、ノ、夫、其、控
主、之、目、ウ、或、死、罷、抄、合、或、之、乃、之、科、也

附口入人同罷奉

一 年季、事、十、ヶ、奉、之、限、十、年、迄、ハ、之、乃、出、向、奉
一 小、一、一、より、千、俵、内、ニ、有、来、案、之、一、以、小、大
他、傾、ハ、お、裁、久、安、有、付、妻、子、之、も、令、所、持、手、上、科
無、考、之、一、以、返、以、候、向、信、之、乃、停、止、奉

大成令
三十九

雙舟
言れ

一 手負うる者正不隠呈奉

一 主なく宿うの時借人より形を町奉行より
上しく表判で借し奉

一 辻立門立まつうの次第切布より
かくと族者より若ては曲事支

右條に被定執呈てある此旨若他仍執達如件

寛文九年六月十二日

奉行

定

一 寺々宗門之事

司法省

累年所割禁うといふも強以無以絶て
改し自然不害成者ありて中か

付天志ん御人

銀三百枚

いふまん御人

銀百枚

同宿吾宗門の御人

銀五拾枚

又ハ三拾枚ありてより内儀員方より通て
若隠呈他ありて於取て其所より五人組とる

曲事方呈下り 仰出也仍下知如件

寛文九年六月十二日

奉行

定

吉利支丹宗門に奉累年陸海津割禁令以無以
絶多處にお改旨は任出既自給不富成忠有
ハ中出し此以前侍天竺人の得人銀劔百枚
い新まんに同百文陸海下し自今以迄

一侍天竺人の得人

銀三百枚

一い新まんの得人

銀劔百枚

一回宿禰宗門得人

銀劔拾枚

又夫三拾枚取よらるべき也

右通津襲具よりて下は下し若陸至他より

司法省

形よ相力てハ其主人組迄下は仍曲奉旨可被
任出也仍下急如件

寛文元年丑七月

奉行

切支丹

古成令
三礼

切下丹

定

夷里志丹宗門に奉累年以割禁たりとりのた
強以無以絶お改一一自然不害成との有るま

司法省

中出願し西布うひさうて

伴天まんの得人

銀五百枚

いほまんの得人

銀三百枚

同宿善宗門の得人

銀五拾枚

又夫百枚取よまほつー隠蓋他あり取りお

わくハそ立人組迄曲るなるつー

たう通燭院たり下し従元年維被 仰出強以て

お守し君令遠犯ニおわくハ急座つと交差科者

也仍下知如件

延寶八年八月日

奉行

定

千五百人字門ハ累年所割禁より自然不富
成者有らば中出つて西なりひきり

また北人の得人

報書百枚

いふまんの得人

同三百枚

三泊者の得人

同日

同宿者字門の得人

同百枚

ちと通つたりし経同宿者門よりとりし大
得人は出さずとも報書百枚とりし隠匿地

司法省

所よりあつたあつたよ於てハ今所より名主并立
人組並一類共ニ可なり受取種者也仍り知也件

天和二年五月日

奉行

七教令

定

きりあうん宗門ハ累年の制禁より自給不害
成考ニまらうハ申出つー以ほうひそく

まてれんの得人 銀五百枚

いふまんの得人 銀三百枚

えりつて考の得人 同引

同宿年宗つ得人 銀百枚

ちと通下さるつー考とい同宿宗つー同引

とりあさも申出るふよちう銀五百枚下さる

つーのくー至他申さうらうもさるよおわて

司法省

ハ手取ら名主并五人組近一類サよのを行罪

科考也

正徳元年五月日 奉行

定

火を付ふ考をあらハ早く申出つー若かく

至よ於てハ手取重のふつーたとい同敷う

とつあると申出るよねわらハ手取罪をゆるさ

れ急度の褒賞下さるつさる考を付ら考とえ

付ハこを捕つ早く申出つー足のうーさ

かき丹

七教令

うゝさふ事

但しやゝきとのけりハせんさくことそけ
て早くをけりてく百とあるつさる

一 火車出番の時けりて弛集つてけりす組役
人差出さるハ各列するつさる

一 火車場へ下りてお裁理不きよ通るよけりハ何
法なく旨中さる世毎は居りてすぬ引ふき由
のハ搦捕つて一兵儀よ及びけり付けりてつ
江事

一 火車其外つておのてりて金銀法起けりい

司法省

そりハきけりてきて捕集するて若隠至地てよ
りけりてけりてけりてハき罪重けりてけりて
ひ同類きりといふと中出さるハき罪重とゆ
るされは懲罰下さるつさる

一 火車に居地車たいては車まで荷物をつての
く居りては陰長力絶去おぬき身よさるけり
さふ事

一 車長持停止を多といけりつてけりとのけりて
て造るつてけり一切に高賣さるけりてさる
た修り可おさる若けりお背志てけり罪科也

後報

正徳九年五月日

奉行

一 江戸より結帳取人足賃砂

取川止

荷物差込

九拾四文

乗掛荷人共ニ

同以

かゝ尻馬差込

六十一文

附あしは名ハかゝ尻子ニ同ト云々

り重き荷物ハ巾結賃錢子同ト云々

一

人足一人

四拾七文

司法省

子住止

荷物差込

九拾五文

乗掛荷人共ニ

同以

かゝ尻馬差込

六拾文

人足一人

四拾文

川口止

荷物差込

百四拾文

乗掛荷人共ニ

同以

かゝ尻馬差込

九拾文

人足一人

六拾七文

板搗迄

荷あき迄

九拾四文

系掛荷人廿二

同断

かゝ尻了迄

五拾五文

人足一人

四拾七文

内藤新宿迄

荷物迄

六拾七文

乗掛荷人廿二

同断

かゝ尻馬迄

四拾四文

人足一人

三拾四文

司法省

泊りよて本賃残

主人一人

三拾五文

石仕一人

拾七文

馬迄

三拾五文

たゞ通て去る者於本省忘る由り也

正徳九年五月日

奉行

諸国浦高札

定

一 公儀より津和ハリノ下及至治徳也和方遭那風

後集
二七

小時名助船出之船破換せざる船ニ成程程と
出さる事

一 船破換之時令近き浦へ先程と出し荷物船
具亦取揚りし令取揚りし船あり内浮荷物ハ
或指分一沉荷物ハ拾分一但川舟ハ浮荷物ハ
三拾分一沉荷物ハ或指分一取揚者も可き事
一 沖にて荷物と為る時ハ若し船に漕ぎ於て令
し両代友子代在船出合逐穿鑿船も取残荷物
船具等も分り出流文案事

司法省

附船取浦へと若し令合船ありと取
まらざる船と偽り船中於てハ後日寸寸とい
ふとも船取ハ川舟も不及令華江に及ぶ
事て令取重なり事

一 漕ぎ長く船と至華江へハ舟子細と申し若
舟舟日和以舟早に出航いし事し令上ニ事
も令船取ハ何方と船と取届く近遠ハ令地取
両代友遠方若し船取定舟又令其遠く舟舟
ハ急度中事

一 舟取事也了列舟具申主不足し思舟も不之積
し舟日和能舟船破損ハ船主取取て為曲り

惣多理不辱威儀中是又ハ私也於有ハ
出中ハ能雖同類ノ科之由ラサレ内儀若クハ
下ノ事

一自然寄取手荷物於流来者ハ揚至之申年迄
荷主於無キ者揚至ノ禁ヲ去ク若クハ日數過
荷主陸為出来不之返シ雖船中可ハ地取代友
可陸若事

一持賣物ヲ結シ勝負堅信止キルノ事

右條ノ可ホ守シ若於未育ハ可ハ勿羅科若也

正徳元年五月

奉行

司法省

浦ノ儀高札

前ノ事ノ浦ノ高札建

公儀ノ取ハ不取中儀也水取振成或無キ松
ハ仰付ハ要遭強風ハ節セテ若クハ船ノ助
コハ不取成却テ破取ハ松コノ一ニ是ケ荷物
之制ラセ或ハ上乘取以テ中合不法ハ儀大者
ノ松コ未付ハ不届ニハ以料ハ以代友取取ハ
地取より若ク遠味毛取不付不付松ノ急度
可中付ハ若ク此上不付ノ儀於有ノ事海日ニ

後取

了

おす口の竹千とのりりり及次而る考道
はは至科を止其所し内代友地取までて為
成事

一 所城米船近年破船多し。付今般法事お改列
ふ大切可仕旨中海船多し。做七深ク不ての程
二 大坂船ハ大坂船行を船西くし船ハ支
配之所代友の船是定し。而極印と舟船以水主
し人教と不減少程。急度中付今運漕苦。は
依し漕の考は船の分を船以水主人教并船是
極市し通無お建引送る状。引合急なお改帳

司法省

面。記呈上乗船取形し。させ太書お其所
二 為呈所料し内代友和順と地取は若出し内
代友并地取し内勘定奉行迄。と若出し且又
極市の船は深ク入り船有しゆり。積は依教
委細。改し所城米し船取和し運賃と取地
し米穀或商賣し荷物も積入れ。又ハ水主人
教定し内令減少ゆり。船も積入れ荷物も其
前。是所揚並水主人教不足し分ハ若所。は
成由主と雇せ為致出船。と。そ方し張早速
所勘定奉行。可傳し奉

後永也

一 破船有るに浦へのとの出合荷物船具亦出揚
り別盗取のり又ハ所届り仕形於るハ船取
りし不隠至有船ニ早速可傳り事
大條ノ急度可守若連托り事於有るに詮候し
上可立引罪科不吐味り子細もゆりり手取支取
り所代及又り地取迄可為就座考也

正徳二年辰八月

享保三戌年十月

定

司法省

印片より此結賃取人足賃取

取川より

荷物取結

乗掛荷人共

りし馬馬取延

附河内法者りりし馬子同支りりし

荷取ハ中結賃取同りりり

人足一人

子住より

荷取取結

九拾四文

同引

六拾五文

四拾七文

九拾五文

系掛荷人共

同引

かゝ尻馬を延

七拾文

人足を人

四拾六文

川口まで

荷物を延

百四拾文

系掛荷人共

同引

かゝ尻馬を延

九拾文

人足を人

七拾七文

板橋まで

荷物を延

九拾四文

司法省

系掛荷人共

同引

かゝ尻馬を延

七拾五文

人足を人

四拾七文

上高井戸まで

荷物を延

百六拾五文

系掛荷人共

同引

かゝ尻馬を延

百八文

人足を人

七拾九文

下高井戸まで

荷物を延

百四拾九文

享保七寅年七月

日本橋汁屋建山高札

乗掛荷人九

同引

引馬馬三疋

百文

人足一人

七拾三文

泊りして木賃残

主人三人

三拾五文

召仕三人

拾七文

馬三疋

三拾五文

右ノ通可取之若於此有ハニ為曲事者也

享保三年十月日

寺内

定

一 諸國所料不又ハ私領ト入組ハ場所トテモ新
田可成物ト於者トモ其利ト以代友地所并而
姓中後何所得心ト上新田立ハ仕取委細信
寄書付ニ志ス一五歳内モ京所町モ仍西出
申出筋ハ大坂町奉行所申出筋関ハ列ハ江戸
町所仍所ハ之願出ル新人或夫百姓トナリ
或ハ金充トモの巧ト以初メ金銀出出サ知
リ其ハ後トモ一ニ存儲リ之以申出之の所
ハ此味ト上ホ之ハ出ルトテ之者ト事

司法省

一 惣ハ以代友申付ハ筋ト後ニ付納方ト益トモ
不ホ成下ト却ラ致難儀ル有ルハ之申出
係中立トシ得モ每々自分勝手トナリトモ
計取出トホ方トハ其ト無クハ事
ナリ報可ホ心得考也

寅七月廿六日

奉行

享保七寅年十一月

十月廿三日 函日市橋計ニ建ル高札

覺

返来
了

海軍
了

了

一火を付る者百捕所を引割に可来る

一火を付る者百在り而を志しハ早速で御出る

たしあく有るハ所獲兵とて此銀子三拾枚下

さる一々とて同類とていふ其科をゆる

一此所獲兵下さる一怪変とのは不怪成ゆと

も百連来は厚く若火を付る者を見のうすれり

し子仕進るお知りりし科おとけり厚き者也

庚十一月日

奉行

享保十一年年正月

司法省

日本橋江に立りて札

覺

一三三附息共金元并改宿り者勺拾ひる

一情変お以長系情変宿りし者

たし族南正月よりお止しとのハて若免れる

孫は以後急なお情で申は若お止とのハあ

人流累或ハ手あより死罪で申付は勺拾ひ

等ハ身軀取上取人子下にて若遣り事

右と通二ハ若南正月以前旧悪をて若免れ

る正月以後迄もお止族於有るハ何者よて

小町奉行所へ密ニ可傳出の急度内儀見金ニ
付下り奉

但同類の内きりといふ可傳出勿論自ら

舊悪を自今於未改ハテ科を免レ見

又内何う云下り奉

一如法中付以上者於戸家主并名主五人組と

の井中倉常々心違フ被以味疑交者於有る

早ニ可傳出の外ハ他人有る情実取立三三附

急度金元并右寄被レハ若石捕りり、其處交

夫上家古有るハ家主ハ家成夫上百日より須

司法省

切名而隣并五人組家成夫上ケ名主町内ハ夫

急度過料下付奉

夫レ疑可お心得万一种ありとの急報を以中出

るよおわくハ咄味ハ上急度下付者也

享保十一年

年四月

禁裏少去凶
定武以祝儀

大成令

自
七六

司法省

禁裏御吉凶之部

大庚令

一 来月廿一日 女御 御入内付等 康祝儀
以使者此書立之面々可致差上之旨自老中
相觸之所謂

尾張中納言殿 紀伊中納言殿 甲府宰相殿

館林宰相殿 水戸宰相殿 松平加賀守

松平越前守 井伊掃部頭

右共 禁裏 御太刀馬代黄金三枚宛

女御 白銀二十枚宛

司法省

女院御所 因形

尾張中將殿 水戸少將殿

右共 禁裏 御太刀馬代黄金

中將殿 二枚

少將殿 二枚

女御 白銀十枚宛

松平新太郎 松平大隅守 松平相摸守

松平安藝守 松平大膳守 細川越中守

松平右衛門佐 松平丹後守 友堂和泉守

松平龜子代

右共 禁裏レ 御太刀馬代黄金三枚宛

女御レ 白銀二十枚宛

松平越後ノ 松平讃波ノ 保科筑前ノ

酒井雅樂ノ

右共 禁裏レ 御太刀馬代黄金二枚宛

女御レ 白銀十枚宛 女院御所レ 因断

佐竹修理左ノ 森 内記 松平淡路ノ

丹羽左京ノ 松平出羽ノ 松平大和ノ

幸多 内記 松平下総ノ 松平土佐ノ

有馬中將大輔 峰原笑千松 上杉越平次

司法省

右共 禁裏レ 御太刀馬代黄金二枚宛

女御レ 白銀十枚宛

松平似馬ノ 伊達遠江ノ 宗討馬ノ

織田山城ノ

右共 禁裏レ 御太刀馬代黄金一枚宛

女御レ 白銀十枚宛

阿部豊後ノ 稲葉美濃ノ 久世大和ノ

土屋但馬ノ 板倉内膳ノ 牧野依波ノ

松平美濃ノ

右共 禁裏レ 御太刀馬代黄金一枚宛

女御 白銀十枚

女院法所 同前

寛文十三五年五月

禁裏町

大成令

一去九日

禁中極然災燒町中鳴物今日より三日之内
停止可仕有也 作付片写其通町中可相
觸以上

五月

司法省

延宝六年六月

大成令

東福門院殿

御香奠献上之次第

一 五万石より九万九千石迄

白銀五枚

一 拾万石より拾九万石迄

白銀拾枚

一 貳拾万石より三拾九万石迄

白銀貳拾枚

一 四拾万石以上迄

白銀三拾枚

一 拾万石以上之嫡子

白銀三枚

一 三拾万石以上之嫡子

白銀五枚

白銀拾枚

甲府中將殿

白銀拾枚

尾張中將殿

白銀拾枚

紀伊中將殿

白銀拾枚

水戸少將殿

白銀或拾枚

千代將君法方

以上

同御香奠献上之次第

一白銀三枚

松平左京右史

一圓割

松平刑部大輔

一圓割

松平播磨守

司法省

一圓割

宗 對馬守

一圓割

織田山城守

一圓割

毛利甲斐守

一白銀或枚

織田内記

一圓割

松平豊后守

一圓割

松平大學頭

一白銀三枚

丹羽若狭守

一白銀或枚

織田伊豆守

一白銀三枚

松平攝津守

一圓割

松平出雲守

以上

隱居之面々献上之次第

一 白銀五枚

松平 新太郎

一 同封

松平 紀伊守

一 同封

松平 源英

一 同封

森 内記

一 同封

松平 兵部左輔

司法省

貞享四年三月

大成令

御即位奉祝儀献上之覺

禁裏_江

一 銀三十拾枚

三十拾万石以上

一 同 二十拾枚

貳拾九万石以上拾万石以下

一 同 拾枚

九万石以上五万石以下

但五万石以下三万石四万石以上は
献上也

奉院_江
新院_江

一 銀三十拾枚

三十拾万石以上

一 同 拾枚

貳拾九万石以上拾万石以下

一 同五枚

九万石ヨリ五万石迄

但五万石以下之石は亦
献上也

中宮ト

一 銀拾枚

三拾万石以上

一 同五枚

或拾九万石分拾万石迄

一 同三枚

九万石分五万石迄

但五万石以下之石は亦
献上也

以上

司法省

貞享四年

大成令

御即位付而献上物之覽

一 或拾万石以上

一 荷二種

一 五万石ヨリ拾九万石迄

一 荷一種

右之通可有献上之及園主之嫡子多りとハ

トも不及献上也以上

元禄九子年十二月

大成令

一 来春法入内付而後侍従以上 并拾万石以上之

面々献上物之次骨

御入内ニ付献上之覺

禁裏は

御太刀法馬代

黄金三枚

女御は

白銀貳拾枚

紀伊大納言殿

甲府中納言殿

尾張中納言殿

水戸宰相殿

司法省

禁裏は

御太刀法馬代

黄金二枚

女御は

白銀拾枚

尾張大納言殿

紀伊宰相殿

禁裏は

御太刀法馬代

黄金貳枚

女御は

白銀拾枚

水戸中納言殿

同 少將殿

禁裏レ

御太刀漆馬代

黄金三枚

女御レ

白銀二拾枚

三枚方石等
付提等

禁裏レ

御太刀漆馬代

黄金二枚

女御レ

白銀拾枚

指下石分三枚
付提等

司法省

禁裏レ

御太刀漆馬代

黄金三枚

女御

白銀拾枚

指下石分一
付提等

寶永六子年十月

大威令

禁裏レ

御太刀

御馬代 黄金三枚

禁裏御移徙之儀祝儀以使者可獻及日限
之無構使若京着次第献上之筈二及衣後亦
俊松平紀伊守可任為品格以上

十月

松平加賀守

細川越中守

松平伊豫守

松平陸奥守

松平肥前守

松平薩摩守

松平右衛門督

井伊掃部頭

松平丹後守

松平安藝守

松平民部左輔

若堂和泉守

司法省

御太刀

御馬代黄金武收

松平肥後守

松平兵部大輔

松平越後守

松平廣政守

松平淺路守

伊達遠江守

松平越中守

松平甲斐守

柳宗或部大輔

上杉民部大輔

戸田米次正

松平大和守

阿部封馬守

佐竹大膳方丈

有馬玄蕃殿

松平土佐守

松平下總守

小笠原右近將監

松平左兵衛

御太刀

御馬代黄金左衛門

松平左系方丈

松平抱彈守

松平攝津守

松平左兵衛督

松平出雲守

松平中務方補

司法省

織田越前守

松平大膳方丈

松平大學殿

土岐伊豫守

宗 封馬守

黒田豊前守

松平右系方丈

松平出羽守

松平豊後守

土井周防守

松平伊賀守

松平越前守

寶永六年十月

大成令

禁裏

御太刀

馬代白銀三拾枚

主上御庖療酒湯之唐後儀以使者可也獻及
日限之無構使者京着次方献上之等之及衣帳
亦之候委細松平紀伊守可也得差及尤法酒
湯之為召及儀之承及以後使者可也差登
及京於之及差並及家来相勤及共務之次方
之及以上

十月

松平加賀守

松平陸奥守

司法省

細川越中守

松平薩摩守

御太刀

馬代白銀式拾枚

松平肥後守

松平民部大輔

松平伊豫守

松平安藝守

松平兵部大輔

左衛門右衛門

井伊掃部頭

佐竹大膳方丈

松平淡路守

有馬玄蕃頭

松平肥前守

松平土佐守

松平太遠門督

松平庄左衛門

馬代先傳通判

松平丹後守

御太刀

馬代白銀拾枚

松平越後守

松平越中守

松平讚岐守

柳原式部左輔

宗 對馬守

戶田未如正

伊達遠江守

阿部對馬守

松平甲斐守

松平少弐守

上杉民部左輔

酒井雅正

松平大和守

幸多信濃守

司法省

小笠原右近將監

南部信濃守

松平隱岐守

酒井修理左吏

立花飛騨守

稻葉丹後守

松平長門守

阿部飛騨守

丹羽左京左吏

志田伊豆守

酒井左衛門尉

堀田伊豆守

御太刀

馬代白銀十枚

松平左京左吏

松平左兵衛督

松平攝津守

松平中務左輔

松平出雲守

松平大膳守

鐵田越前守

土波伊豫守

松平大學殿

志田豊前守

松平大系守

松平出羽守

松平豊後守

土井周防守

松平伊弉守

松平越前守

松平飛騨守

寶永七年庚午十月

大成令

司法省

御即位ニ付法祝儀物

禁裏卜

御太刀

法三家

白銀三拾枚

仙洞卜

御太刀

白銀貳拾枚

女院卜

白銀拾枚

新院卜

回朝

大准后レ

回朝

一種一荷宛

長橋弓
大乳人

仙酒
上福弓

右之通 御即位 御元服ニ付来春松平紀伊守

法聞合可献之儀

十月

御即位法祝儀献上之覺

司法省

禁裏レ

一 御太刀
白銀三拾枚

三拾万石以上

一 御太刀
白銀五拾枚

或拾九万石レ
拾万石レ迄

一 御太刀
白銀拾枚

九万石レ
或万石レ迄
但此万石以下之弓は
以上ニ朝上也

一 御太刀
白銀或拾枚

三拾万石以上

一 御太刀
白銀拾枚

或拾九万石レ
拾万石レ迄

一 御太刀
白銀 五枚

九万石より
五万石迄

但五万石以下は
以上は献上也

女院 卜

一 白銀拾枚

三拾万石以上

一 同 五枚

或拾九万石より
拾万石迄

一 同 三枚

九万石より
五万石迄

但五万石以下は
以上は献上也

司法省

新女院 卜

一 唐国程

大准后 卜

一 唐国程

右之通 御即位 御元服 二 付素春松平紀伊守

新婦差等可有献上及以上

十月

正徳元卯年七月

大成令

境税之事

京都近邊

禁裏 仙洞 御料有之長所ノ境税ノ其由を

書付及旨相聞及惣而如此之類のおよみり

禁裏 仙洞 木の字ある一山 不可然法事

いふ事一山科ノ法料有之長所 山科法料

相ニ有之長所多相法料なり書改可然及又

なるとに法料有之知法料とありハ 相年丹波

領と終可申及其村之名を用及程可然及且亦

司法省

洛中洛外町中の看板其外書付

禁裏 御用 仙洞 御用 木の字ある一山 書

改及程可然及

正徳元卯年七月

一町中見世之看板

禁裏 御用 仙洞 御用 木の字ある一山 類

書付亦も有之あり一書改可申及此各町中急

度可お編及以上

七月

正德元卯年七月

一 町中見世し看板抄 御所法用木占有之ハ

ハ、書改可申及此旨町中急度可取觸及以
上

七月

正德二辰年三月

唯今迄及 勅答と申来此旨向後

禁裏 御所方ハ 御返答云 作出及云唱

司法省

此程ニ云云 作出及云左様可云心得及

右書付高家奏者番ハ後之

正德二辰年丑月

大成令

此度

禁裏 御所方法草云付法築地料如先

規高掛及云松年紀伊云及云作出違云及云及
損可申上及云以上

丑月

尾張中納言殿

紀伊中納言殿

水戸中納言殿

坊度

禁裏

御所方法草律三付法築地料如先

規高掛以有松平紀伊守以取取違可取差出以

以上

五月

右書付五万石以上之面々取取編之

司法省

正徳五未年九月

大成令

法皇 御官 御入輿之儀云作出左之書付
後之

覺

一 隱居又ハ病者幼少之面々夫今日申老申越前
守中勢方補若年寄申宅以以便若法務候
可取申上取事

一 在園在邑之面々夫取承取以後以便若法務候
可取申上取事

但隱居在邑之面より目前
右之通可相觸及以上

九月

享保元申年十月

大成令

水戸中納言殿

尾張中納言殿

紀伊中將殿

禁裏ト

司法省

御太刀

御馬代

黄金三枚

女御ト

白銀二十枚

来月十三日 女御入内付分以康使若古之通可
衣献及康使若衣候勤方日限亦去於京於水野和
泉等ト可承合及此候可申上候

十月

但徳川鶴千代殿より衣献物三不及候在事ト

女御入内付而献上物

禁裏レ

御太刀

御馬代

黄金三枚

女御レ

白銀二十枚

松平加賀守

松平薩摩守

松平陸奥守

井伊掃部頭

司法省

松平右衛門督

松平丹後守

松平民部大輔

松平安藝守

松平和泉守

細川越中守

松平肥前守

松平大炊頭

禁裏レ

御太刀

御馬代 芙蓉二枚

女御レ

白銀十枚

松平肥後守

松平越後守

松平廣政守

松平卜弼守

松平伊豫守

松平淡路守

宗 討馬守

司法省

松平甲斐守

上杉民部大輔

松平大初守

有馬玄蕃守

松平土佐守

佐竹右衛門左衛門

小笠原右近將監

松平隠岐守

柳宗武部大輔

禁裏レ

御太刀

法馬代 黄金 三枚

女御 上

白銀 十枚

松平 出雲守

松平 大藏政

松平 越前守

松平 日向守

松平 播磨守

松平 紀伊守

司法省

松平 右兵衛

松平 伯耆守

松平 伊豆守

同 郭 越前守

松平 右近將監

本多 中務大輔

来月十三日

女御入内付而為法馬代以使老右之通可有
勅上及使者衣被勤方日限亦云於京外水野

和泉守 上 兼合 兵衛 可云申付也

右之通可也相違長以上

十月

享保元申年十一月

大成令

女御御里法殿法築地高掛り金五万石以上五
畿内近江丹波播磨城主之高差出付而左之通
以書付相違之

女御御里法殿法築地入用高掛り金可也差
出及刻合申ハ從水野和泉守可也違長百可

司法省

意均其意長

十一月

井伊掃部頭

松平紀伊守

榊原式部左輔

松平左兵衛督

園部兼濃守

内藤豊前守

本多信濃守

本多下總守

松平丹波守

服部淡路守

青山因幡守

享保元申年十一月

女御清里御殿法華地之掛り金五万石以上五歳
内近江丹波播磨城立之令差出付而左之通心
書付お達之

女御清里御殿法華地入用之掛り金可差
出及割合亦ハ從水野和泉守可お達出付可
之其意也

十一月

井伊掃部殿

松平紀伊守

柳原式部左輔

松平左兵衛督

岡部義隆守

内左衛門前守

司法省

本多信濃守

本多下總守

松平丹波守

服坂淡路守

青山因幡守

享保元申年十一月

大成令

今月十三日

女御入内相涉及付为法親俊明十九日曆斗
目着之四时廻出仕之事

十一月

享保五子年正月廿四日

大成令

新准后

女脚忌年

去廿日薨去付今日より

廿六日迄鳴物三日停止也

但夢徳大不苦也

右之通可也取福也

享保五子年二月

大成令

司法省

女院席所去十日 崩脚付而今日より十六日

迄鳴物三日停止也

但夢徳大構無之

右之通可也取福也

二月

享保十三申年六月

大成令

去十一日

立坊お掛付而為法祝儀明古日

御奉丸西丸ト惣出仕之事

一 右为唐祓袞左玉左色之面、五万不以上、左使 札五万石、下左、飛札可差、裁、更 右之通可左、右、編、左、以上

六月

享保十五戌年十二月

大成令

覽

禁裏

法皇法麻疼法快然左、遊、法、酒、湯

司法省

左、右、召、及、为、法、祓、袞、明、古、六、日、御、奉、丸、ト、惣

出仕之更

但所奉丸右、餅、西、丸、ト、惣、可、有、出、仕、事、ト

一 病等幼、少、隱、居、之、面、ト、ハ、月、昔、之、老、中、封、馬、与

宅ト、使、若、可、差、裁、及、事、ト

一 在国在色之面ト、ハ、老、中、封、馬、与、ト、控、万、不、以、上

之使札其外ハ、可、为、飛、札、及、事、ト

一 出仕之面ト、ハ、服、紗、小、袖、麻、上、下、可、为、着、用、事、ト

右之通可左、右、編、及

十二月

享保十七子年八月

大成令

法皇法不豫法養生不為竹去六日遊

崩脚二付而為何法概極明十一日忽出仕之事

但西丸卜為忽出仕之事

一病氣幼少隱居之面、八月番之老中豐前守

宅卜使悉可差哉此事

一在國左色之面、之使札可差哉此事

但在玉左色之端子隱居由右同判

一普請鳴物今日未、十四日迄五日停止之事

司法省

右之通可為右編改

八月

享保十七子年九月五日

大成令

敬法門院去月晦日薨去付而今日、七日迄修

物停止二改

但普請、不苦改

享保二十卯年三月

大成令

卯三月十一日

左近將監政法被_レ丹波守至

法勘定奉行_ト

御讓位相濟

院所所料之事前_レ支七千石宛迄_レ以_レ爲_レ靈元院法例之通_テ方_レ不可_レ迄_レ長_レ白_レ後_レ也_ト所一方_レ成_レ法_レ注_レ長_レ爲_レ可_レ爲_レ右_レ之_レ通_レ及_レ所二方_レ成_レ法_レ注_レ長_レ時_レ之_レ迄_レ而_レ是_レ方_レ石_レ迄_レ及_レ可_レ爲_レ重_レ而

司法省

所方_レ以_レ及

東山院法例之通七千石迄_レ之_レ而_レ可_レ有_レ之_レ以_レ狀_レ額_レ右_レ法_レ治_レ時_レ之_レ傳_レ奏_レ礼_レト_レ可_レ直_レ名_レ之_レ被_レ丹_レ波_レ守_レト_レ抄_レ達_レ名_レ守_レ可_レ爲_レ其_レ意_レ狀

享保二十卯年八月

大成令

所即位法祝_レ後_レ献上_レ之_レ覺

禁裏_ト

一 脚太刀
白銀三枚

三枚万石以上

一 脚太刀
白銀或一枚

或一枚万石以上
一枚万石以上

一 脚太刀
白銀一枚

九万石以上
五万石以上

一 同前

五万石以上
三万石以上

仙洞下

一 脚太刀
白銀或一枚

三枚万石以上

司法省

一 脚太刀
白銀一枚

或一枚万石以上
一枚万石以上

一 脚太刀
白銀一枚

九万石以上
五万石以上

一 同前

五万石以上
三万石以上

右之通

脚即位相濟士波丹後等
均着宗可有献上

使者差登此附其亦之候是亦丹後也 可也相
何及以上

銘之 以別紙相違分

紀伊殿

尾張殿

鶴千代殿

禁裏ト

御太刀

白銀三枚

司法省

仙洞ト

御太刀

白銀貳枚

一種一荷宛

大目乳人

仙洞
上臈弓

紀伊中將殿

禁裏ト

御太刀

白銀五枚

享保二十卯年十月

然

御即位後後儀献上之覺

公方極下

一二種一荷

貳拾万石以上

一 一種一荷

拾九万石より
五万石迄

一 回割

五万石以下より
以兩以上

大納言極下

司法省

一 一種一荷

貳拾万石以上

一 一種

拾九万石より
五万石迄

一 回割

五万石以下より
以兩以上

右之通以使者可有献上及在在色之面々

回事以當地之者可有献上及日限ハ進而可お進

及尤

大納言極下之献上物々西九下可有献上以上

十月

純伊殿

尾張殿

鶴千代殿

公方極h

二種一荷

大納言極h

一種一荷

純伊中將殿

公方極h

一種一荷

司法省

大納言極h

一種

享保二十九年十月

大成令

卯七月十日

左近將監及三奉行h 尾後

三奉行h

御即位二月叔父作付書寫輕羅之末

可立書出及

享保二十卯年十一月

大成令

今日三日

御即位相濟出二付為法祝儀奉_レ十一日服
紗巾袖半袴着之四寸惣出仕有之故尤西丸
はも居出_レ為事

但出仕無之面々ハ月番之老仲能登_レ与
宅_レハ以使老法祝儀可申上_レ故在玉在色
ハ面々ハ老中右京左更能登_レ与ハ使

司法省

札可着_レ哉事

右之趣可_レ申_レ相觸_レ故

一右ニ付先日相觸_レ故通_レ法持_レ着

御奉_レ丸西丸_レハ奉_レ十_レ中_レ朔六_レ寸_レより五_レ寸_レ寸_レ迄
之_レ内_レ法_レ云_レ関_レ分_レ可_レ着_レ上_レ故

右之通_レ五_レ万_レ石_レ并_レ四_レ品_レ以上_レ之_レ面_レ々_レハ可_レ申_レ相_レ達_レハ

元文元辰年十月

大成令

女御入内ニ付献上物

禁裏レ

御太刀

馬代黄金三枚

女御レ

白銀式指枚

松平加賀守

松平陸奥守

松平大隅守

松平相摸守

司法省

松平安藝守

松平兵部左輔

井伊掃部頭

松平大炊頭

松平筑前守

松平信濃守

松平大膳左衛門

細川越中守

友堂和泉守

禁裏ト

御太刀馬代黄金式枚

女御ト

白銀拾枚

松平下総守

松平甲斐守

佐竹右京左衛門

松平土佐守

有馬中務左衛門

宗 討馬守

司法省

上杉民部左衛門

松平肥前守

松平廣政守

松平阿波守

松平幸千代

阿部豊後守

小笠原右近將監

禁裏ト

御太刀馬代黄金式枚

女御ト

牧野河内守

来月中旬

女脚入内 = 付为清祝仪以使共右之通可有
献上及使共衣服勤方日限亦之於京於之改
丹後守 卜 承合共程可之中付及
右之通可有之取違及

十月

司法省

大成令

元文元辰年十一月

今月十五日

女脚入内 相濟及 = 付而为清祝仪以立日
服纱小袖半袴着之四寸惣出仕可有之改西
凡卜 出仕出及事

一出仕每之面之 支月番老申 能登与宅卜 以使共
清祝仪可申上及

一为清祝仪在玉在色之面之老申太京太吏能
登与 卜 土万石以上之使扎土万石以下之使扎
可之善哉事

右之通可也如觸也

十二月

元文二己年四月

大成令

一仙洞法不豫法養生不為竹去十一日
崩脚及付而為何脚穢躁以十九日惣出仕之
事

但西丸石發惣出仕之事

一病氣幼少隱居之面八月番之老中能登馬

司法省

宅上使者可也差裁及事

一在園在色之面之使札可差裁及事

但在必在色之嫡子隱居右日部

一普請鳴物今日より素々廿二日迄五日停止事

右之通可也如觸也

四月

元文二己年四月

大成令

仙洞 崩脚付而四雨拾万石以上より京師に
后使老而香奠献上之儀 享保十七子年
靈元院 崩脚之儀之通可也 養上及妻
細土波丹後守に可也 何也尤献上に可也
其以後月番之老中に可也 爾也
右之趣可也 抄遺也

四月

元文五申年三月

大成令

司法省

梅溪前中納言卒去附

法部屋敷に 為何法穢原松平加賀守松平
陸奥守父子松平大陽守 漏語哉前家法三
家庶流法譜代大名法流法養者番斗より
能登守宅に 使若可善哉其在西在色之面
に 其不及其後也

但在之節、何法穢原不及也

一竹千代極法穢原何に不及也

右之通可也 抄遺也

寛永二十未年八月朔日

大威令

諸大名所礼之次序

一 園持大名 兼侍從以上

以外右之内 交出元

松平裁前守

松平万千代

松平德千代

松平又三郎

松平三左衛門

一 四品之元

司法省

以外右之内 交出元

有馬中勢大輔

馬田吉左衛門

松平對馬守

赤松山城守

伊達左京亮

一 法穆代之四品元

一 法穆代大名 中大名 兼 五格之者 壹万石

以上之元

以外右之内 交出元

松平 少兼

織田伊豆守

松平 河内守

酒井 孫兵衛

水野梅前守

石川 彈正

小笠原 兵部

松平 齋松

井伊 每之助

鍋嶋 甲斐守

鍋島 刑部

山内 修理

京極 卜弼守

井伊 小之助

井伊 齋之助

小笠原 大和

户田 末如

一 法護代元

中大名 齋乃石笠之惣領

松平 能登守

松平 玄蕃頭

酒井 長門守

本堂 伊勢

司法省

松平 文右衛門

山名 主殿

松平 每之助

右之通云お定之旨向後不礼觸次法礼可落出
之由 作之趣 老中 齋傳之

寛永二十一 申年十月

大成令

一 今晚法玄供 元人 齋 城之老 列限之度

法近習之面々

未下列分
目下列近

惣番元

未下列分
申下列近

法元申列分 目下列近を限へて 城外支如例

年たるべき名を作出之詔詔可存其名之由
上意し云々是例年支申ノ刻以後各周ノ刻
迄ノ間各殘登 城付而下乘之極之廻修從
一 同ニ群集ノ騷動之故也云々

慶安元年八月

大成令

一 雖為無用因持之惣願分々向後以太刀目錄一
人充四品之次ニ是礼可申上名を 作出之
一 三千石以下タリト云共四品以上ニ分ハ是亦

司法省

以太刀目錄是礼可申上名を作出之

慶安二年七月

宝式正統條明

大成令

一 御城様ト跡々ハ教之是礼ニ上リハ藏人有
之者いづつものこしくとすりは均と町申
おふきこの事ハ是礼ニ上リ付テ不申者ハ
必う為無用事

七月

明曆三年二月

大成令

覽

一拾万石以上園持大名進先從當年三々年之内
支參勤之進物

一時收十 法右馬代 黄金三枚

一圓三重 法右馬代 黄金三枚

一圓二重 法右馬代 黄金三枚

以右之内意分限可支指上之事

一丸万石より五万石迄法太刀馬代黄金三枚

司法省

一四万九千石以下又法太刀馬代白銀三枚

一五万石より園持大名迄筆書之法收候

進上

一吳服 五

一圓 二重

一圓 進

一圓 一重

右意分限以此圓可支差上之端年重陽ニ支
控込可為減少此即為々支控中進物可有狀
上之事

一 下、青信猶苦、夫系勤、端年、重陽、舉、苦、凡
可為無用事、

二月日

延寶三年十二月

大成令

覺

一出仕日、脚玄閣、下、苗主居、居、出、出、俊、玉、持
大名其外、四、兩、以上、又、幼、少、之、面、之、夫、家、東
可出之用、所有之、在、商、等、之、若、斷、之、使、夫

司法省

蘓、鉄、間、下、系、及、美、於、席、玄、閣、法、從、目、付、下、判
之、可、多、通、事、

一 主人席目見之外、一家之内、登、城、之、若、苗、主、居
出、出、俊、可、為、無、用、事、

一 苗主居蘓鉄間、居、立、若、及、用、所、打、冊、片、之、
早、退、出、事、

一 出仕之面、之、供、之、若、決、定、之、外、下、列、及、可、為
無、用、事、

以上

十二月

延寶八申年十一月

大成令

德松栴は端午重陽奉書法時版并御破魔
弓秋上之次は作出祈禱

端午

一 白銀三枚

壹万石より
四万九千石迄

一 同 五枚

五万石より
九万九千石迄

一 同 拾枚

拾万石より
廿拾万石迄

一 同 二拾枚

三拾万石以上

司法省

重陽

歲暮

一 白銀 五枚

壹万石より
四万九千石迄

一 同 拾枚

五万石より
九万九千石迄

一 同 二拾枚

拾万石より
二拾万石迄

一 同 三拾枚

三拾万石以上

右之通は作出之但重陽之法祝儀也

公方栴は法時版献上之は面は斗可差上之

御破魔弓秋上之事

右席一門方圍主城主三万石以上登四品以上之

嫡子其外園井河月守松平因幡守石川義濃也

牧野傳後多可指上者也且又葛蒲師甲目前

延寶八甲年十二月

大成令

覽

一元日師奉丸ト出仕之面ト同日西丸ト登

城太刀目錄ト三日午冠以前以使者西丸ト秋上之

但在國名代之使者ハ長袴在江戶使者ハ可為半袴事

司法省

一二日師奉丸ト出仕之面ト同日西丸ト登

城太刀目錄ト四日巳刻以使者西丸ト秋上之事

一三日師奉丸ト出仕之面ト同日西丸ト登城太刀目錄ト四日巳刻以使者西丸ト秋上之事

一壹万石以下之千石以上之面ト 師奉丸ト出仕太刀目錄秋上之軍右之日限之通以使者可指之中トヨリ入 日明款全服ト而養者番之 家来傳取之網使者可為半袴事

但三千石以下之諸方吏法平法眼之面

發右同封

一惣法番元無官之醫師兼法杖持之下其町人亦

西九日六日七日五日可致出仕事

以上

十二月

覺

一紀伊殿 水戸殿 甲府殿 西九日元日出

仕尾張中納言殿名代之使若目封何長太刀

目錄菱若番取之事

司法省

一法三家法息方西九日二日出仕太刀目錄右同

封

一元日法奉凡日出仕之面同日西九日登

城右刀目錄三日午之刻以後以使若西凡日

献上之但在國名代之使若長袴在江戶之使

若ハ可為半袴事

一二日所奉凡日出仕之面同日西九日登

城右刀目錄四日巳刻以使若西凡日秋上之半

一三日所奉凡日出仕之面同日西九日登城

太刀目錄五日巳刻以使若西凡日秋上之半

一 壹万石以下三千石以上之面々、唐草凡下出仕
太刀目録狀上之輩右之日限之通以使者可
差上之中ノ口ヨリ入回朋款存服ニ而奏者番
之家来唐取之納使者可為半袴事

但三千石以下之唐衣更法平法服之面々
長右回制

一 惣唐番元三宿之医師 英法杖持之下之町人
ホ西丸卜六日七日五日ニ可致出仕事

以上

十二月

司法省

延宝九酉年四月 大成令

葛蒲唐甲之覺

一 唐甲作なり 三拾二間或拾五間或八間筋金
間銀八幡坐まひさし 緋青緑青あて彩色
繪根あり其外椎なり或抛なり或既なり
可仕事

一 唐衣こ洒衣下り惣金草おとし紫草或
赤草花色之草十五通りそのけおしぬ心

の裾は葵の脚紋と鶴丸の摺裾あり上四枚は
緋青緑青の彩色を志ころの裏は朱可仕更
一 脚前立物丸く白に葵の脚紋をうへ緋青緑
青より彩色丸く金脚紋の下ふ志のみあり
又ハ缺形又ハ上り半月其外は立物或後
立物ニ可仕也

一 裾うけ裏はあやちりめん羽子等を可仕
事

一 裾忍く徳田前の事

一 裾ひきどすう糸白或花色或赤色或葵

司法省

色又ハ金沙ませらる可仕事

一 裾面布は金内朱ひけそう糸白よこ色う
五枚さうりゆ志ころ日前ニ可仕事

一 裾至甲立白木可仕事

以上

一金銀金具各用之事

一 そくまをやくゆこゆの款各用事

一 糸の款おこしふを中すし記事

一 うゆしを中すし記事

一 脚甲立摺裾の外各用之事

延寶九年四月

大成令

御翫物然上之覺

一作物人形數三亦ハ且是より減少ハ不苦其人形おきせハ衣類唐織類可為無用日本織物可用之事

一人形載之箱ノ大ナキ尺四方但箱ニ金銀之箔蓋及皮ハ不苦所紋者繪書ハ半ハ無用の事
一カヤその無用なる物ハ但少掛のくらんを不

司法省

苦い志のれとも金銀のうぶもの付る安い
めつきハ不苦い

一漆塗無用ハ半

一家秤無用ハ半

以上

天和元年八月

大成令

總目御礼之書然上物之次第

一五百石より九百九拾石迄

銀馬代

一千石より二千九百石迄

金馬代

一 三千石より四千九百石迄

金砂板

一 五千石より九千九百石迄

金三枚

一 醫師

法印法眼よりあり

法印一巻
法眼一巻

存之書付

臨陣祇儀より法書政以彼人大目付

向後如時多るよりより案可存其紙より名豊後守

傳達也

天和三年二月

大成令

司法省

覺

献上之呉笈たる條紋時純子端臨可為無
用向後ハ男むすの呉笈可為差上事
存之當暮之呉笈ハ可為改去也

二月

元禄五年申年四月

大成令

覺

一 御白書院

波御之書内書院法廊下

少々所目見仕事面々所黒書院法務子ニ存之
而法白書院 出所之茲 所目見可仕事
一高家礼支 入所之茲 属之間ニ在之而
所目見可仕事

月次所礼日向後右之通可仕以上

四月

元禄八年三月

大成令

覺

司法省

詰礼

法奏者苗礼

寺社奉行

詰礼並之礼

向後所礼日ニ領差合ニ而登 城毎之あり

月番之老中迄其名可仕届及

一法役人礼ハ 日役迄取以 大目付礼又ハ所目

付礼迄可仕届及以上

三月

元禄九子年七月

大成令

覺

一 御臺標 桂昌院標 御袋標

鶴姫君標は何品よりより多物を仕たり老
中出羽守右京左史はお寢者宗次可差上
及びのむきより上は紋不用し事

一 右奥女中極方は洋領物を仕たり老中出羽守
右京左史方は法礼は可差宗次事

一 糸勤又ハ家督友位法加増おし音物并

司法省

秋上之法残老中出羽守右京左史若年考元
く和ハ無用之事法礼は可差宗次事
法側元芙蓉より法役人元法目付元ホハ
前く之通可差心得事

一 隠居之節 兼遺物ホハ老中出羽守右京左史
若年考元元之外無用し事

一 惣而不依何事預り老中出羽守右京左史
可中ハ甚外らハ一切無用之事

附支配有之面ハ支配方ハ可差宗次

右之趣諾大名始諾宗次法役人ハ申傳之

向後望くを守る程可也打違後以上

七月

元祿十二年六月

大成令

覺

法譯代礼

先ハ打交可也出

奥詰礼

右之向くを而四品以上先官次申詰右更之

司法省

知新言次申先下出

所目見可仕言也

作出長此後等々可也申違後以上

六月

元祿十二年十一月

大成令

覺

一四品及拾万石以上之面々困持く嫡子ハ出仕
之時分留守居之者召連片義傍申次申

長事

但 幼少或ハ老人ノ面々ハ外係人ノ色ハ
可為傷子切事

一拾万石以下ニても糸勤法服其外狀上物未
シ節ハ只存進シ通苗主居可差出ル用
吏仕廻次第早速可分取返事

一乃持法安産ノ内ニ差並ハ面々向後手カ
リ差出ル要毎用ニハ刀持人ツ可差並
取事

元禄十六未年十月

大成令

司法省

覺

若年寄支配之諸役人寄合毎月法礼日
忌日ニ登 城無之面々ハ前日ニ月番進
取届取様ニ々向々可分進取以上

寶永元申年六月

大成令

即番不取急又ハ病氣之如小普徳ト入以面々
年始其外法礼日且亦惣出仕有之節向後
登 城無用ニ及唯今迄出付ル事ニ而也

所出言及以存之肉德方更兼三千石以上之面
くも登 城不仕及上去年路八款席方刀不
及秋上以言右之趣可之申渡及以上

六月

寶永元申年十二月

大成令

中納言孫の秋上物

端午所祝儀

白銀十枚

三拾万石以上

司法省

同五枚

拾万石より
二拾万石以上

同三枚

五万石より
十万石以上

同一枚

五万石より
十万石以上

重陽

歳暮

所祝儀

白銀或拾枚

三拾万石以上

同拾枚

拾万石より
二拾万石以上

同五枚

五万石より
十万石以上

同三枚

五万石より
十万石以上

以上

一年頭八朔之侍馬代負致
公方様上 秋上之通可差上之

寶永二酉年 四月

左殿令

中納言様上 奉勤之節 秋上物之覺

五万石より 四万九千石迄

御右刀侍馬代銀 三枚

五万石より 九万九千石迄

司法省

御太刀侍馬代銀 十枚 而後金 五枚 而後

拾万石以上云

公方様上 差上之通 御太刀侍馬代銀 而後

黄金 而後 差上之品ハ 亦お届不及ハ

一万石以下云 御太刀侍馬代銀 可差上ハ

一位様 御基様 侍馬代銀 可差上ハ

一御簾中様之如中 亦 猶物不及ハ

以上

宝永二酉年正月

大成令

覺

西九は五節勺月次之唐礼は向後布衣以上
之面は斗可有出仕及寄合は而も布衣已上之
斗可有出仕及以上

正月

寶永二酉年閏四月

大成令

唐礼日西九は出仕之覺

司法省

一朔日唐三家方

一十五日万石以上

一廿八日諸役人寄合亦

只今迄出仕は西九は出仕大勢は而支込
合及在右之通は但年始五節勺唐三家
方諸大名諸役人寄合亦唯今迄出はつはけは分
可有出仕及

一四月朔日斗は奠斗目給着用 同十月は廿八日

五月朔日九月は廿日は後紗袴着用可仕は

一九月九日花色小袖は不限何色はても着

用可仕也

一十二月朔日同十五日ハ服紗小袖着用廿八日
斗熨斗目着用可仕也

右之趣可云お福及以上

酉閏四月

宝永二酉年閏四月

大成令

西丸ハ登 城之覺

一十五日庚申守居元大番既元交替寄合之

司法省

内表向より居礼居如面ハ表高家

一廿八日交替寄合并御奉丸ハ月次居出也

三千石以上之寄合又ハ三千石以上之小普

清法平法眼ハ醫師

右之通登 城可有也

一右之御ハ宗前お福及通弥可有登

城也

一年始ニ支當春之通可有登 城也

一五節勺ニ支居三家并十五日ニ出仕ハ分計

可有登 城也以上

閏四月

西九月月次出仕之覺

大成令

朔日

卿三家方

十五日

万石以上父子

高家礼

出苗守居礼

司法省

大康番改

文習考合之内表向方居礼居出以方

無友之高家

金地院

大護院

林大學改

廿八日

布衣役以上之居役人

文習考合

三千石以上之寄合

布衣以上ノ奉合

三千石以上ノ小普請

布衣以上ノ小普請

法平法眼ノ匠者

中奥仕小姓

同仕番

同仕番

宝永三戌年三月

大成令

司法省

覺

献上物之數百或五十三十廿十又五五ツ
ニツ或ツと用束ハ得テ向後缺百ノ數を茂
用可申及右ニ准リ自今ノ付届音物も
いつ色ノ數をも用可申及
右ノ通寄ノ可ニお達及

宝永三戌年十二月

大成令

覺

一 来年始長當年始之通 所布凡上登 城之面
西凡上登可立屋出及馬代 當春之通
所布凡上登可立屋出及馬代

一 歲暮之為祝儀 老中在京支 伊賀等 為年
身中上 相越 及古八日 前 猶子 次 身 見 合
不 込 合 換 可 立 兼 及

一 年頭又三日 七日迄之 因 古 何 歲 不 込 合 稅
猶子 次 身 可 立 兼 及

附 風 烈 之 意 古 年 禮 可 為 立 用 以

一 寺社之身 可為當春之通 及 兼 町 人 法 藏 人

司法省

等 可 為 回 前 及

一 前之 兼 打 觸 及 通 供 之 老 大 勢 每 之 稅 可 立

及 及 以 上

十二月

宝永三年十二月

大成令

覺

布衣以下 輕子 軍 及 居 礼 事 有 之 兼 西 凡 上
居 上 以 不 及 及 但 三 千 石 以 上 之 面 之 可 立 兼 及

十二月

宝永四年七月

大成令

家千代様卜 年路八款一 秋上物

一 路上家路拾万石以上嫡子隠居共二席太刀
席馬代 黄金壹枚 但拾万石以下三 石目

公方様 大納言様卜 金馬代 秋上 来卜

面一 家千代様卜 金馬代 秋上 可有一 枚

一 拾万石以下 壹万石以上一 席太刀 席馬代 銀

司法省

一枚

右何様 席奉丸卜 可有 大納言 万石以下 面一

家千代様卜 及 不及 秋上 及

右之通 可有 大納言 以上

七月

寶永四年八月

大成令

家千代様卜 席祝 纹物之 覺

端午

白銀 五枚

三拾万石以上

同 三枚

拾万石以上
五拾九万石以上

同 貳枚

五万石以上
九万石以上

同 壹枚

五万石以上
四万石以上

重陽

白銀 拾枚

同 五枚

拾万石以上
五拾九万石以上

同 三枚

五万石以上
九万石以上

同 壹枚

五万石以上
四万石以上

司法省

歲暮

右同制

右之通可多指上及

宝永六 丑年二月

大成令

覽

一向後 余勤之 茲法内 澄秋上 均各用 可任事

一 老中 越前守 若年 参上 音物 之 候 只今 迄表 立

及品 之外 二 内澄 音物 若间 見 拜 之 一 下